

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2874001411		
法人名	社会福祉法人 三光志福社会		
事業所名	グループホーム 志深の苑		
所在地	姫路市御国野町深志野1430番地 (電話) 079-253-7817		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年8月5日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(平成20年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	S	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2	要介護2	1			
要介護3	5	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	83.2歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共立病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは姫路市東部の丘の上にあつて、母体法人の施設の建物の並ぶ奥に位置している。近くの間々と町が見えて眺めが良い。ホームの玄関を入ると、台所と南の大きな窓に向かつて食堂兼居間のスペースが広がる。管理者及び職員は、穏やかに利用者との対応をされており、利用者はそれぞれに、思いのソファや椅子にゆったりと過ごされていた。ホームでは、「しふかえんさん」という毎月のホームの行事や利用者の生活ぶりを掲載したおたよりを発行しており、豊富な内容が盛込まれている。ゆったりとした雰囲気の間ホームであるが、地域の間では孤立感がある間、管理者ははじめ職員のいろいろな方面での今後の活動や取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	玄関のドアを時間を決めてオープンにする取組みや、共有空間が殺風景だったのが、職員と利用者の共同作品やカレンダーを作成して掲示するなど、身近な出来る箇所からの改善を行っているが、改善課題についての会議等の開催はなく、具体的な取組み計画、改善については今後に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	全職員による自己評価を実施して、管理者がまとめる形をとっている。個々の項目についての職員間での話し合いや取組みは確認できなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	今年6月27日に開催されている。その際は、家族と一緒に外出する機会を持つ提案や、意見箱の設置について、自治会や老人会からの出席があつて実施されている。今後はより幅広い方面からの参加者を募り、この地域でのホームの役割や利用者のことやサービスの向上に向けての話し合いを積極的に行つてほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	訪問された家族には、積極的に利用者の日頃の様子を伝えたり、家族からの意見や要望があれば聞きだすように努めているが、中には言い出しにくい家族や内容について引き出すひとつ方法として、無記名のアンケートをとるなどの試みもいろいろ意見運営へ反映させるためにもいいのではないかと。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	丘の上にあるという立地条件や、母体法人との関連があり、地域との連携や協力体制については課題が多い。気軽にどうぞとはいえないが、今すぐには無理であっても、運営推進会議や家族との意見交換を通して、いろいろ取組みをしてほしい。利用者が、この町で暮らすこと、地域の間での生活やできることを考えて、将来の連携に繋げてほしい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自己評価の時点では検討中であったが、その後、職員により具体的な言葉で作られていた。		利用者がこの地域で、家庭的な環境と、地域住民との交流のもとで安心して生活できる場として、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を反映した内容になるように、今後も更に職員共々作って行ってほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念の内容をほぼ理解しているが、その実践に向けての職員採用時や、日々の取り組みは確認できなかった。		職員の採用時や、ミーティングや申し送り時などに理念に触れたり、会議や研修時などでも職員全体で話し合う場を作って、具体的なケアに結びつくようにされることが望ましい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭や小学校の運動会、音楽会などに参加して、地域の人々と交流する機会を設けている。事業所独自の地域の人々との交流は行われていない。		自治会や老人会と関わりを持つことで、事業所の役割を理解してもらい、お互いに地域を支え合うような関係を構築することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行っている。また、時間を決めて玄関を開放したり、手作りカレンダーや壁面の作品など前回にはなかった取り組みをできることからされている。		評価結果をミーティングで報告し、改善に向けての具体的な目標と計画を作成して、取り組みの方向性を明確にした上で実践に臨むことが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	この1年に実施された会議では、その内容により参加者を決めて開催している。民生委員、家族に事業所の取り組みや課題について意見を述べてもらい、それに対して事業所として回答がされている。		会議の頻度を増やしたり、開催日時を工夫することで、自治会や老人会、あるいは不参加だった家族が参加して活発な意見交換が行われ、ホームのこと、生活している利用者等を知ってもらう機会にもして意見を聞かせてもらう場にもしてほしい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	グループホーム連絡会への参加を通じて、市職員と意見交換をしている。		運営推進会議への参加依頼をしたり、連絡会への参加を通じて意見、情報等を日々のサービスの質の向上に繋げるように取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回、請求書と金銭管理の状況を伝えると共に、写真入りの広報を通じて利用者の生活の様子を報告している。家族の面会時に利用者の状態を報告するように努めている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の面会時に、管理者や職員が積極的に話しかけて意見を聴くようにしている。不満や苦情は解決に向けて話し合いがされている。		意見箱を設置したり、無記名のアンケートを配布するなどして、家族の意見・要望を集める機会を作ってみても良いのではないかと。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内の異動の際、利用者との関係や状況で必要により話をする必要がある。また、異動した職員が事業所に顔を見せて、利用者の不安を軽減する配慮がされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者が、管理者や職員を積極的に育てるための計画作りや研修受講の機会の確保や体制作りを進めていることは確認できなかった。</p>		<p>運営者に、研修計画を立案し、法人内外での研修を受けることができる機会の確保をしてほしい。また、ミーティング時に勉強会を実施するなど、時間帯や内容を工夫して参加しやすい機会を作ることが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会への参加により、その中で意見交換を行い、サービスの質の向上を目指している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用するまでに何度か見学にきてもらったり、1日体験的に過ごしてもらったりすることで、その方に合った馴染めるような工夫がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜作りや料理の仕方を教えてもらったり、料理や洗濯物たたみを一緒にしたりして、お互いが協働しながら生活できるような取り組みが行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、言動や表情、行動、興味などを観察して、本人の意向の把握に努めている。ただし、認知症の進行に伴い、直接意向を聞くことができる利用者が減ってきており、家族から話を聴いたり、職員間で利用者の思いの確認をしている。</p>		<p>利用者の生活歴、家族の意見を参考にし、利用者の意思を捉えることと、会議などで利用者の意思の確認と職員間での共有をすることが期待される。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者本位で検討し、本人家族等の希望を聞き取り、反映されている。ただし、家族の意向が具体的にどのように反映されているか介護計画からは読み取りにくかった。</p>		<p>利用者の意向と職員間の意見やアイデアに加えて、家族の意見や要望をより多く取り入れて検討し、さらに利用者本意の介護計画を作ることが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者に急な変化があった場合は、職員間で介護方針を話し合い、具体的な対応を決定している。しかし、介護計画の内容を変更して、計画を見直している点は確認できなかった。</p>		<p>職員間の話し合いの結果と介護方針を、介護計画上に明確にすることで、利用者・職員・家族間のケア方針の共有をして、きめ細やかなサービスの実施をすることが期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所としての多機能性の理解を深め、地域住民や、相談に来られた方等への要望に応えられる多機能性が、どのようなものかを検討され、個々に応じた柔軟な支援を目指してほしい。</p>		<p>地域住民や利用者が求める多様性に、事業所としてどのように対応や配慮をしていくか、個々の利用者や家族が安心して暮らしていけるような柔軟で多様性のある支援が可能となるような取り組みに期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診やかかりつけ医との相談、情報交換を密接に行っている。また、利用者の身体状況により、定期の往診以外に往診を受けたり、点滴の処置を受けたりしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針について、具体的な話し合いや方針を形にする取り組みは見られなかったが、管理者はその重要性を認識している。		重度化や終末期に向けて、ホームで可能なケアと家族や本人の希望を聞いて、かかりつけ医を含めた繰り返しの話し合いをもって、全員で方針を共有されることへの取り組みを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で言葉遣いや、生活の中での会話や対応に注意している。利用者の尊厳を損なわないよう、入浴順を変更するなどの具体的な対応もされている。		訪問当日は、管理者はじめ職員の言葉遣いは穏やかで利用者への対応に配慮されていたが、その内容を含めた具体的で定期的な研修を行ってほしい。言葉かけ、対応、記録の保管等についても、職員への確認も含めて実施されることが望ましい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	原則的に起床、就寝時間は本人のペースに合わせている。散歩なども本人が行きたい時間に職員が付き添えるように配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の栄養士が作成した献立をもとに、現在は昼食のみ調理している。利用者と職員と一緒に準備、食事後片付けを行っている。利用者は材料を切ったり、配膳や台ふきなど、できることをされている。朝食については、土・日曜日がパン食で、平日は粥食である。朝食と夕食共に、法人施設から調理済みのものが届く。		調理や配膳、片付けに加えて、利用者が献立を考えたり、買い物をするという準備段階から食事に関わることや、朝食や夕食についても利用者が料理に関われる時間を増やすことが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯がほぼ決まっており、それ以外はシャワー浴にて対応している。		曜日や時間などにとらわれずに入浴を楽しめるように、その内容詳細について、職員やホームの都合ではない支援を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や野菜の手入れ、針仕事や掃除など、利用者一人ひとりが持てる力を活かして、生活に主体的に関われるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回外出日を決めて、2~3人が外出できるように計画を立てて実施している。また、朝に散歩に行くなど戸外に出る機会をできるだけ確保しようと心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に行き来できる環境を整えたいと職員間で話し合いを重ねている。現在は玄関は施錠されているが、時間を決めて開放する時間帯をつくり、実施している。		運営者・管理者・職員間で鍵をかけないケアの意味を認識した上で、利用者が外出する気配を見落とさないような見守り方法の徹底や、付き添う職員の確保といった課題をクリアーして、少しずつ開放する時間を増やすことが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	災害や緊急時に、対応できる対策や研修は特にされていない。		災害時の避難訓練や緊急時の対応についての勉強会の実施が望まれる。また、地域の人々や消防署へ協力を求めて、災害時の地域との協力体制を整えることが期待される。災害対策についても運営推進会議等で議題をあげたり協力を得られるよう話を勧めてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	施設の栄養士が献立を作成している。食事摂取量は毎食記録して把握している。水分確保については、1日5回以上お茶を飲んでもらう機会を作っている。また、個々の身体状況や習慣に応じた支援も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室前には表札やプレートがある。廊下の壁面に利用者と一緒に作成した作品や、行事や外出の写真が掲示されている。玄関にはプランターが配置されている。ソファやいすが置かれて、座れる場所をつくり、居心地よく配慮されている。		ホールの飾り付けやソファ・家具の配置を利用者と一緒に相談し、生活感のある空間づくり、利用者の居場所づくりを検討してほしい。
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	作り付けの家具が各居室に備え付けられており、個人の使い慣れたソファ等を置いている部屋があった。机には写真や手作りの作品などが置かれており、自宅と同じような配置にしている部屋もある。		

 は、重点項目。